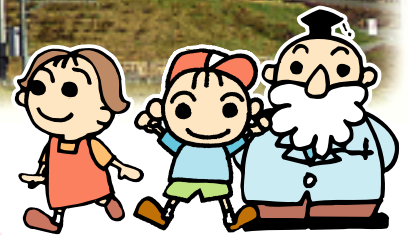


ダムっ湖

2005.4.15
三国川ダム管理所発行



やっとなつと春がきたゾー!!!



りっちゃん さぐくん さぐり博士

今年の冬は19年ぶりの豪雪に見舞われ、三国川ダムでの積雪量は最大時で**4メートル**を超えました。でも、ようやく、ようやく三国川ダムにも春の訪れが感じられるころになり、桜も咲くころになりました。

三国川ダムの春はとてもきれいな表情を見せてくれます。満開の桜と雪の山々のコントラスト(写真上)、非常用洪水吐から滝のように流れるダムの水(3ページ写真上)、山の木々が芽吹き、だんだんと緑に変わっていく景色などなど。春も自然の見所いっぱい三国川ダムへ是非一度お出かけ下さい。監査廊の見学も5月1日から再開しますので、こちらもよろしくネ。

ちなみに昨年の様子はどういうと...。桜はダム周辺では4月15日頃が満開でした。十字峡まで市道が開通したのは5月21日。非常用洪水吐からの越流は4月25日から5月7日でした。さて、今年は...



雨の夜

「中越魚沼南部地域は...今夜半から大雨になるでしょう...
洪水に警戒が必要です。」

三国川ダム管理所では、毎年6月1日から9月30日までの洪水の起こりやすい期間中は、洪水を防ぐため、24時間いつでもダムゲート等の操作を行えるように当番制で対応しています。

今回は、ある職員(さくくん)を例に、その一端をご紹介します。

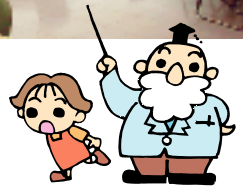


夕方6時。管理所から見える山々にも雲がかかってきました。今日の当番(1)はさくくん。早速さくくんは、ダム管理所の4階にある操作室(2)へ行き、詳しい気象情報を知ることができる機械(3)を操作して、これからの天気を頭に入れた後、宿直の職員に一声かけて、ひとまず家に帰ることにしました。

夜11時、布団に入ったところで家の屋根にポツポツ雨音が...忍び寄るかげ陰。「来たな!」。竹刀ではなく、枕元に置いた携帯電話を手にするさくくん。何をすればモード(4)? さくくんはモードで気象情報を見て、とっぴあえず眠りに就きました。ZZZ...



ダム管理所の操作室



その後、雨は激しくなりました

深夜2時「ピロロロ...」メール(5)が来ました。

そして「ピロロロ...」電話も来ました。

来ました来ました、文字と声で連続雨量10mm(6)の連絡が!

さくくん出番です。素早く着替え、車に飛び乗りダムまで真っ暗な道を一人出勤。(当番は3人なので、同じ行動をしている職員が3人います。)

ダムへ到着。すぐに操作室へ。まずは、現在の雨の状況、今後の予報などを確認して、まず洪水に警戒する体制に入ることになりました。どうも今回の雨は、長く降り続きそうです。ダムに入って来る水の量も大分増えて来ました。

さくくんは、規則に従ってダムから流す水を増やすこと(7)にしました。でもすぐには流せません。まず、市役所などの関係する所へ流す水を増やすことを連絡します。また、ダムから魚野川に合流するまでの三国川のパトロール(8)も開始しました。



パトロールカー

この続きは、次号へ...

- ※1 6月1日から9月30日の期間は、梅雨・雷雨・台風等で洪水が起きやすいため、管理所職員9名を3班に分けた1班3名と、休日夜間においては宿日直の2名を加えた計5名で24時間大雨に備えています。
- ※2 気象情報を集めたり、遠隔操作でダムゲートを開け閉めを行う前線基地です。
- ※3 通常の天気予報では見られない詳しい情報を入手することができます。これがないと仕事の段取りができません。
- ※4 自宅等に居ながらも、ダムの現在の状況や気象の情報を入手することができます。一般の方へも川の防災情報を公開しています。〈<http://i.river.go.jp>〉
- ※5 あらかじめ決められた雨量に達すると、自動的に職員あてメールが送信されます。また、ダムの施設で異常が起こった時や地震が発生した時も同様に、職員あてメールが送信されるようになっています。
- ※6 三国川ダムの流域に設置された雨量観測所の連続雨量が20mmとなり、さらに雨が続きそうな場合は、洪水に警戒する体制をとることとなっています。十分余裕を持って体制に入れるよう職員へは、事前の10mmで連絡が入るようになっています。
- ※7 大雨によってダムに入って来る水の量が増えてきた場合は、徐々にダムのゲートを開け、流す水の量を増やして行きますが、「ダムに入ってくる水の量 = ダムから流す水の量」ではありません。必ず、「ダムに入ってくる水の量 > ダムから流す水の量」となります。昨年7月の大雨によりダムに入ってきた水の量が最も大きかった時でも、1秒間に
ダムに入ってきた水の量 ダムから流した水の量 ダムに貯め込んだ水の量
「 489.5m³ - 72.8m³ = 416.7m³ 」
でした。ダムが無ければ三国川へ、そのまま1秒間に約500m³の水が流れることになったのですが、ダムにその約8割以上を貯め込むことで、地域を洪水被害から守りました。その貯め込んだ水の量は、25mプールで2万杯以上にもなりました。
- ※8 ダムから水を流すとダム下流の水かさが増しますので、その事を三国川沿いに設置されている警報設備から音声などでお知らせする外、同時にパトロールを行い、川の中に入っている人が居ないことを確認します。

まもなく田植えの時季、ダムと農業用水の関係？

日増しに春の訪れが感じられますが、ダム湖も雪解け水がいっぱいに貯まり、まもなく「非常用洪水吐」からの越流が始まります。

さて、そこで今日はその水のゆくえについて勉強してみたいと思います。

さぐり博士：ダムの目的でもある「流水の正常な機能の維持」チョット難しい言葉だけど何のことはない。田んぼや畑の作物には、水が必要なのはみんなも知っているよね。また、魚や川岸の植物などが元気に生きるためにも水は必要不可欠なんじゃ。三国川ダムから水を流すことによって日照りから農作物を守ること、川がもっている本来の姿を守る役目をしているんだよ。



非常用洪水吐からの越流

さぐくん
りっちゃん：水が大切だということはわかっていただけそんなに気にしたことなかったね！
確かに雨が降らなかつたら困るよね。田んぼの稲とか畑の作物とかも枯れちゃうし...

おいしいちゃん：そうなんだよ。まだおまえたちが生まれる前には、全国的に大^{だいかつ}渇水となった年があつて、深刻な水不足になったこともあつたんだ。田んぼはひび割れをおこし、村の人たちは夜も寝ないでポンプで水を田んぼに入れたこともあつた。でもダムが出来てからは、水不足を心配することはほとんどなくなり本当にありがたい。



三国川頭首工

さぐり博士：では、その水がどのようにして流れて来るのか五城土地改良区さんに行って聞いてみるといいよ。

五城土地改良区さん：三国川ダムより三国川へ一度放流された水を三国川頭首工というところで取り入れ、用水路を使って田んぼに水を送っています。ここで取り入れられた水は、農業用水・水道用水・水力発電用水として使われています。農業用水は、下流の五十沢地区や城内地区の用水路を経て田んぼに水が入り、おいしいお米を作るのに役立っています。



「黄金色の大地」
南魚沼市 角屋健次氏 撮影

さぐくん
りっちゃん：三国川頭首工ってどこにあるの？

さぐり博士：三国川ダムより下流4キロメートルくらいのところで舞台というところにあるんじゃない。道路脇に小さな小屋が5個建てられた水門が頭首工じゃよ。この施設は、五城土地改良区さんで管理されているんだよ。

さぐくん：こんど三国川ダムに行く途中、「三国川頭首工」を見ようよ！

りっちゃん：そうね、いつかいいから…。ゴールデンウィークの頃なら非常用洪水吐からの越流も見れるかもしれないしね。

今年は、昭和61年以来の大雪でいつもの年より雪消えが遅いようです。まもなく田植えも始まると思いますが、三国川頭首工脇の記念碑に「春水満四田」と刻まれているように魚沼の大地を潤し、洪水・渇水・地震などの自然災害に悩まされることなく、秋には黄金の稲穂(魚沼産コシヒカリ)が垂れるような年になってほしいものですね。

監査廊公開日のご案内

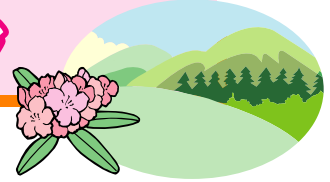
本年度も下記の 着色日に、ダム点検用トンネル「監査廊」の公開を行います。見学ができる時間は1日6回、9・10・11・13・14・15時からの約40分間です。各見学開始時刻の10分前までに、管理所1階の展示室受付へお越し下さい。なお、大雨によりダムの操作を行う場合は、公開を中止させていただくことがありますので、ご了承下さい。

5月							6月							7月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31			
29	30	31												2	3	4	5	6	7	8							
9月							10月							11月													
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土							
				1	2	3							1			1	2	3	4	5							
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12							
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19							
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26							
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30										
							30	31																			



④

『しゃくなげ湖畔を楽しむ会』からのメッセージ



19年ぶりの大雪で例年より遅い春が三国川ダム周辺にもようやくやって来ました。

やって来た、と言っても辺りの除雪はできていませんので管理棟までしか道は開通していませんが、今回はしゃくなげ湖の春についてチョット一言。里場では花見で一杯と言ったところですが、我々もしゃくなげ湖畔に桜の木を植えて長岡の悠久山ゆうきゅうざんよろしく、将来は南魚沼の花見のメッカにしたいと話していたところ、ダムの所長から「ここには幻の桜があるんですよ。」「何ですか!その幻の桜って?」「ええ、桜はあるし花も咲くんですが雪がなくて、徒歩なら行けるんですけどね。」「早い話、職員の人達が巡回の時に見るだけで、桜が満開でも一般の人は見られない。だから幻の桜なんだとか。私たち『しゃくなげ湖畔を楽しむ会』では地域の皆さんとも協力し、花植えや植樹もやっています。今年も色々な企画を考えています。

昨年の『紅葉ウォーク』は地震のため中止になりましたが、来月29日には『しゃくなげ湖新緑ウォーク』を開催します。山野草・野鳥の観察やダムの両サイドには雪解けの水を弾きながら落ちてくる滝が何本も見ることが出来ます。起伏も少ない安全なコース設定をしていますので家族連れでの参加をお待ちしております。

問い合わせ・申込みは

【しゃくなげ湖畔を楽しむ会】 担当:福崎 携帯090-3982-5509



三国川の環境改善に向けたダムの運用方法を検討します

第2回「三国川ダム下流河川環境検討協議会」開催

先々号のダムっ湖でもご案内した「三国川ダム下流河川環境検討協議会」(委員長:本間義治新潟大学名誉教授)の第2回協議会を去る2月17日に開催しました。

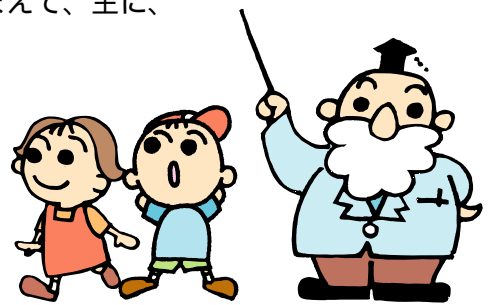
本協議会は、よりよい河川環境を念頭に置いたダムの運用方法について検討を行うものです。

今回の協議会では、今年度行った出水時の現地調査結果を踏まえて、主に、

- ・攪乱かくらん(洪水時に川の中が攪乱されるのは川が本来持っている性質であり、環境上望ましい姿)
- ・水の濁り(既存のダムの設備の運用を改善することによる改善の可能性)

という視点から議論を頂きました。

今年度も、第3回協議会を開催し、さらなる検討を行います。



4月も半ば「春よ来い～早く来い～」歌うというより叫びたくなるくらい、三国川ダムはまだ沢山の雪が残っています。例年ですと山の木々には若葉が芽吹き始め、「ホーホケキョウ～」と、うきすのさえずりが聞こえてくる頃なんです。今年はまだ少し時間がかかりそうです。

間もなくしゃくなげ湖も満水になり非常洪水吐から水が流れ出でて、夏とはまた違う三国川ダムの雄大な姿をご覧いただけますので訪れてみてください。(5月の連休過ぎ頃まで)

紙面の内容にかかわらず、ご意見、ご質問等がありましたらお気軽にお寄せ下さい。(編集部一同)

編集後記

編集・発行

国土交通省北陸地方整備局
三国川ダム管理所

〒949-6741
新潟県南魚沼市清水瀬 686-59
TEL(025)774-3015
FAX(025)774-3092
http://www.hrrm.lit.go.jp/saguri/

